

# 全国に残す軌跡

映画研究部・写真部・新聞委員会が全国出場



題字 井口 文章  
再刊 第490号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2025

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面…3部活で全国大会出場  
オーストラリア留学  
二面…1学年探究でママルト講演  
卒業生から学ぶさまざまな道

7月のNHK杯全国高校放送コンテストに映画研究部が、「第49回全国高等学校総合文化祭かがわ総文祭」に写真部と新聞委員会が出場した様子をお伝えする。

## 全国3位 映画研究部

7月22日(火)から24日(木)にかけて行われた第72回NHK杯全国高校放送コンテストにて、映画研究部が創作テレビドラマ部門で優秀賞(全国第3位)、テレビドキュメント部門で制作奨励賞を受賞した。



全国3位という輝かしい成績にあふれる笑顔

取材に応じてくれたのは、ドラマ部門の土井夕璃さん(3G)とドキュメント部門の宗田葉愛さん(3H)。土井さんは、ドラマ部門優秀賞受賞作品「青い影の選択」について、1つ明らかなミスがあることを教えてくれた。

2人は今回の大会をもって引退となる。3年間を振り返り、「部員が皆優しくとても居心地の良い部活だった」と話した一方で、「1年生の頃からもつとちゃんとやっておけばよかった」と語る。後輩に向けて、「他の人の作品を沢山研究して、大変だと思うけど頑張ってください」とエールを送る。現部長である山本真緒さん(2H)にも話を聞いた。今回の3年生の結果を受けて、「来年は先輩を超える！」と意気込みを語ってくれたが、「正直どこか、プレッシャーがすごい」とのこと。今は今回のコンコンに向けて新しい脚本を作中だ。今までの錦城の実績もあって顧問の先生から将来を嘱望されているそう。

今回の優秀賞受賞作品の「青い影の選択」はNコンのWEBページで公開されている。一言語を話すことができることに驚きを感じたそう。そんな驚きから始まったオーストラリア留学では多くのことを学び、経験したという。その中で最も印象に残った思い出は、オーストラリアの海でペリカンや沢山の野生の鳥、日本では見ることのない木々を見たことだと話してくれた。他には、オーストラリアにも特定の世代や仲間間のみで通じる言葉であるスラング(Slang)が多くあり、それを覚えておくことがスムーズに進むため、今後オーストラリアの人と会話をする際にそのことを活かそうだと語った。(梅)



写真撮影の楽しさを再確認できた

総文祭中の思い出は、顧問と部長を含めた3人で一緒に四国水族館と父母ヶ浜で見た夕日が本当に綺麗で感激したこと。沢山の写真が撮れたことが強く印象に残っていると笑顔を見せた。

## 総文祭優良賞 新聞委員会

新聞委員会編集部は、7月28日(月)から30日(水)にかけて香川県で開催された第49回全国高等学校総合文化祭新聞部門に出場し、優良賞を受賞した。

総文祭では、全国から集まった仲間たちがランダムに5〜6名ずつで班分けされ、その班ごとに紙面のレイアウトを決め取材、そして記事を書くき仕上げる工程を3日間で行った。1日目は自己紹介や仲良くなるための香川クイズなど、2日目に開会式と班ごとに香川県各地に散らばっての取材が実施された。取材先は、丸亀城、善通寺、金刀比羅宮など全12コース。最終日のメインは新聞製作だ。班員が宿で書いてきた記事を張り合わせるという貴重な経験となった。

今回の総文祭を振り返り、「取材を通して香川の魅力も知れたし、班の子とも仲良くなってとても楽しかった」と話したのは、北海道士別翔雲高等学校の佐藤華央さん(2年)。また富山国際大学付属高等学校の関根基さん(2年)は、「3日間とは思えないくらい濃い総文祭だった」と微笑む。学びがとて多かつた3日間。なお、2日目の班別取材については、次号裏面に掲載する予定だ。楽しみにしてほしい。



仲間と協力して紙面完成を目指す

## 489号裏のお詫びと訂正

61 回生探究中間発表会  
【誤】小林周やさん(3B)  
【正】小林周希さん(3D)

映画研究部全国出場  
【誤】第49回全国高等学校総合文化祭かがわ総文祭2025に出場  
【正】2025年第72回NHK杯全国高校放送コンテストに出場

お詫びして訂正いたします。

## 新たな視点で作品を

夏期講習「超・羅生門」レポート

8月18日(月)・19日(火)、夏期講習で神田智衣先生と小向理緒先生による1年生対象の講習「超・羅生門」が行われた。1学期の授業で扱った芥川龍之介「羅生門」を深読みするもので、とても理解が深まった講習だったため皆さんにお伝えしようと思う。

1日目はこの作品が何から影響をどのように受けたのかを学ぶため、平安時代末期の説話集『今昔物語集』のうち、「羅城門上層見死人盗人語第十八」と「太刀帯陣虎魚姫語第三十八」について解説を受けた。前者は盗人が京の羅城門で体験した話、後者は蛇を魚だと偽って売るといふ悪事を働いていた女の話である。小向先生によると、事件風

に記す『今昔物語集』と比べて、芥川の『羅生門』は登場人物の心理描写に焦点を当てており、盗みを働かず死ぬ「善」と死なないために盗みを働く「悪」という境界で揺れる下人を主軸に置いているという読み方が一般的であるそう。また、老婆が髪を抜いていたのは説話では元主君であった女であつたのに対し、芥川の作品では、髪を抜いている相手品を今昔に登場した悪事を働いていた女に置き換えていて、悪事を働いた者がまた別の者によって悪事を働かれるという当時の都の荒れ果て具合がより鮮明になり、老婆の論理の正当性が増していると読み取れると小向先生は語る。

小向先生によるとこのように既存の作品を原作として、新たに作品を作ることを「翻案」というそう。そういう視点で作品を読み直すと、芥川龍之介の作家としての腕の良さに感服させられた。

2日目は、さらに理解を深めるために黒澤明監督の映画「羅生門」を視聴した。この映画の内容は芥川の他作品である「藪の中」に近いが、羅生門からも影響を受けている。全員の話が噛み合わないという謎が最後まで解けないまま終わるこちらの映画。神田先生によると、この映画は羅生門と同様に人間の善性についてが主題であるとのこと。講座で鑑賞したあとは小説・映画どちらの作品も新たな視点で物語を楽しめるようになったと思う。

(運)

## ホストファミリーの皆さんに感謝

3週間留学を振り返って

7月27日(日)から8月17日(日)の3週間、オーストラリア国際交流プログラムが行われた。本プログラムは、ホストファミリーの協力のもと、プリズベンにある Forest Lake State High School で学校生活を体験するという内容



かわいいコアラとも会えました！

で行われ、学校ではeSportsやダンスなどの授業を地元の生徒と共に受けた。今年約30名の生徒が参加した。その生徒の1人である青井唯華さん(1E)に話を聞いたところ、ほとんどの人々が英語だけではなく、他にも



ペリカンと出会った海

中々で最も印象に残った思い出は、オーストラリアの海でペリカンや沢山の野生の鳥、日本では見ることのない木々を見たことだと話してくれた。他には、オーストラリアにも特定の世代や仲間間のみで通じる言葉であるスラング(Slang)が多くあり、それを覚えておくことがスムーズに進むため、今後オーストラリアの人と会話をする際にそのことを活かそうだと語った。(梅)

## 留学生と英会話力を磨く夏

GLOBAL STUDIES PROGRAM 開催



留学のステップアップに

今年も、GLOBAL STUDIES PROGRAMが8月11日(月)から15日(金)まで5日間学校内で行われた。クラスも学年も混ざった生徒5〜6人のグループにグループリーダーと呼ばれる大学生の留学生が1時間ごとに代わりながらつく。そして、「自分について表現してみよう」をテーマに、自分のアイデンティティや人から見た自分などについてディスカッションや発表をしていく。

このプログラムに参加した大橋紗和さん(1K)は、学校の英語の授業よりも少人数で、実際に外国の方と会話するこのプログラムに参加し、自分の英会話能力が試され、コミュニケーション能力が上がったと笑顔を見せる。また、「スピーチをしてこい、紗和！」と同じグループの人に送り出されることもあり、はじめは涙目になりながらもみんなの前でスピーチをしていたが、この5日間で多くのスピーチをして、度胸がついたと思うと話してくれた。休み時間に留学生とカードゲームをすることもあったようで、雰囲気はアットホームだったと話す大橋さん。今後については、実際に海外、特にアメリカに行ってみたくと話し、「留学する上でのステップアップになりました」と5日間を振り返った。(桃)

## むらさき草

この夏、祖父母の家に帰省をし、従妹に会った。3姉妹なのだが、下の3歳の双子は頬がもちもちで、とてもかわいかった。ふと思いついたのは、子どもは大人に育ててもらったために「かわいい」という話▼ヒトが赤ちゃんを本能的に「かわいい」という目で見る感情には、「ベビースキーマ」が関係しているそう。ベビースキーマとは赤ちゃんの大きな頭、ふくらんだ頬、短い手足などのこと。赤ちゃんは、この体形によって大人の庇護欲を刺激し、自分の身を守ってもらっているらしい(参考:ニッポン放送NEWS ONLINE、2019年2月16日配信「赤ちゃんをかわいいと思う本能「ベビースキーマ」とは?」2025年7月31日閲覧)▼が、ウミガメのように全く世話をせず野放しにする動物もいる。この場合、その動物は「かわいい」を刺激する本能が必要ないためウミガメの赤ちゃんのようにベビースキーマの特徴はない。一般的に子育てをしない動物は子育てにエネルギーを使うよりも、多くの卵を産んで何匹かが生き残ることに賭ける戦略をとっている。子育てをして親が捕食者に狙われることを避け、生存率を高める戦略もある▼逆に子育てをする動物の場合、捕食者から子を守り、生存に必要な環境を提供することで生存率を高める戦略をとる。さらに、ベビースキーマは別の種にも影響があるそう。実際に、動物の赤ちゃんに対してヒトは「かわいい」と思うことがある。その原因は、かわいさはヒトの進化の過程において非常にうまく機能したため、それが波及して、動物や物体に対してもかわいいという反応を引き起こすようになったという(参考:日本経済新聞「動物の赤ちゃん、なぜかわいい? ヒトの脳の反応と進化」2025年8月25日閲覧)▼双子の頬から、動物の生存戦略の多様さを考えることになったが、興味深いものだ。日常でふと思ったことを調べていくことは、面白いと思う。(蒲)



羅生門の深みを 知る2日間

# 「夢を追うのは一直線じゃないと思うんすよ」

## 45回生 ママタルト・大鶴肥満さん来校！

### 進路探究 卒業生講演会

7月18日(金)の4時限目の探究の時間に本校45回生であるお笑いコンビ「ママタルト」の大鶴肥満さんが来校された。1年生全員と2、3年生の希望者に向けて行われた講演会の様子と、特別インタビューの様子をお伝えする。(編集部共同取材)

#### あの大鶴さんが来校！

7月18日(金)に第一体育館で行われた探究授業で、拍手の中ゆつくりと登場してきたのはママタルトの大鶴肥満さん。錦城の45回生で身長は182cm、体重はなんと190kgだそう。高2の健康診断の際に「なんで死んでないの!?!」と驚かれたとトークを繰り広げ、生徒の笑いを生んだ。

大鶴さんは進路探究について、芸人を選んだことを振り返りつつ話をしてくれた。大鶴さんは「ママタルト」に入社して、卒業後1年の就職を経てお笑い芸人になったという。大鶴さん、芸人さんたちは薬にしろに仕事をしているように思うが、実はハードスケジュールでフリータイムが30分くらいしかないことも

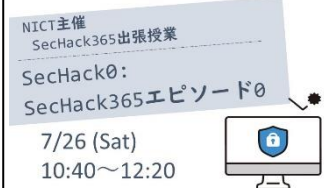


「エアコン17度くらいに設定できませんか?」などと生徒の笑いを生む大鶴さん

### 楽しさを支えるセキュリティ情報出張講座に参加してみたい

7月26日(土)、夏期講習の一環として情報科の出張講義が行われ、NICT(情報通信研究機構)の講師の方々にお願いいただいた。NICTは、ICT技術の研究とサイバーセキュリティに取り組む公的研究機関だ。今回はその取り組みの一つである「SecHack365」という人材育成プログラムの1日体験版を受講した。SecHack365は本来、若い世代が1年間かけて研究や開発を行う長期プログラムだが、今回は短縮版を体験することができた。

はじめの講義で概要を聞いたあと、私たちは班に分かれ、



出張講座のポスター

「架空の商品を考える」課題に取り組んだ。私の班のテーマは「通学時間を楽しくすること」。そこで考えたのが、かけると現実とは違う風景が映るメガネだ。朝の満員電車が草原や海辺の景色に変わったら、と想像がふくらんだ。

しかし、楽しさだけを追い求めるわけにはいかない。使う人の安全をどう守るか、視界を奪わないための工夫や、データが不正に利用されない

仕組をどう組み込むかなど、セキュリティ面での議論も重ねた。限られた時間で考えをまとめて他の班の前で発表したときは、大変だった分、達成感が生まれた。

今回の体験を通して、便利さや楽しさの裏には必ずリスクが潜んでいることを実感した。これからは新しい技術に触れるとき、楽しさと同時にセキュリティの大切さを意識し、学んだことを生活の中でも生かしていきたい。(紬)

#### 学校説明会開催中



中学生が参加したスタンプラリー

7月22日から8月23日の毎週火、木、土曜日に中学生に向けて学校説明会が行われた。参加した中学生は、「在校生の方々が作られた紹介動画があり、学校の雰囲気を感じることができて、自分も通ってみたいと思いました」とコメントをくれた。(桃)

#### 特別インタビュー



新幹線で1席に体が収まらない様子を実演

講演後、2年生の編集部員が大鶴さんにお話を伺った。高校時代の印象に残っている

先生は英語科の堀河先生らしく、英語の予習をしない授業に臨んでしまったことをその時の様子を再現しながら懐かしそうに話してくれた。

また講演で触れた小平ロードの登校について、「錦城時代に自転車で鍛えた体力が今の体型を支えているひとつの要素なんじゃないかな」と思いま

## 新聞部の強さと男子校の魅力に迫る

### 全国3連覇! 埼玉県立松山高校新聞部に取材



編集部は7月22日(火)、松山市にある埼玉県立松山高等学校に伺い、新聞部に取材を行った。同校新聞部は、年100回を超える発行の多さと、今年の総文祭で3年連続新聞部門最優秀賞を受賞するなど質の高い新聞を両立している。そんな新聞部の強みの秘訣や男子校の魅力について取材した。

#### 分業体制で、一人ひとりの興味から新聞を作成

松山高校は今年で102年を迎える歴史ある男子校。生徒数は約1000人で、理数科と普通科、学年により普通科特進クラスがある。SSH校に指定されており、多くのワークショップが開催されるほか、理数科では3年生で英語による発表があるという。

話を聞いたのは、新聞部部長の杉原壮太さん(2年)、幹部の武内清志郎さん(2年)、松井心佑さん(2年)、福島大稀さん(2年)、大下裕斗さん(2年)。130人以上もの部員を抱える新聞部では、「分業は分断ではない」とし、アポ取りから取材までを行う取材班、取材に同行し記事を書くライター班、取材の写真を撮影キャプション(写真の説明)をつける写真班、そしてレイアウトをつくり記事や写真を入れて新聞を仕上げるIT班に分かれて新聞を制作している。班ごとの苦労もあるようで、取材班班長の武内さんは取材許可を求めるアポがうまくいかない、その後の取材、発行ができないので、他の班へ影響が大きくアポが大変、写真班班長の福島さんやIT班班長の大下さんからは班同士の連携が大変と、分業ゆえの苦労が挙がった。しかし話を聞いていると、各班が自らの仕事に責任を持ち取り組んでいる様子が伝わってくる。

年間200回を超える取材は、幹部を中心とした部員が発案、部員自らアポ取りし現地で行われている。国立科学博物館の「DNA—日本人のきた道—」、「やまっぷ」(登山用アプリ)の企業、「チ。—世界の運動について—」の作者取材などさまざまな取材が印象に残っているという。杉原さんたちは、人生観も学べたり貴重な経験を得られたり、なにより「部員みんなで楽しめました」と活動を振り返る。松井さんは、「自分が好きなゲームの会社に取材したことがあるという話を聞いたのも、入部のきっかけの1つです」と話してくれた。「一人ひとりの興味を大切に」を合言葉に、自分たちの興味から幅広いジャンルの取材に向かい、新聞を制作している姿を目の当たりにした。



互いに取材をする

#### 男子校あるあるについて聞いてみた



歴史ある記念館の外観

公立、男子校で、錦城と違いが多いように感じられる松山高校。気になる学校生活について新聞部員に話を伺った。校則について、スマートフォンは錦城同様持ち込み可だが、学校内での使用は原則禁止。制服は指定で、部員は皆さわやかな夏服を着用。ジャージ登校は禁止という決まりもあり、現在生徒会長が許可されるように尽力していると話してくれた。

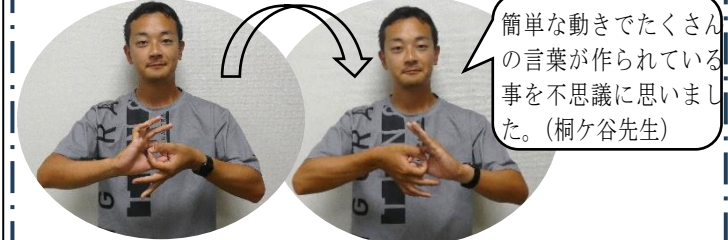
男子校の雰囲気について部員曰く、「仲が良い」。男子校ならではのすることについて大下さんは、「体育祭や球技大会などの行事ににぎやかです」と教えてくれた。また、「体育後の休み時間で、更衣室ではなく教室で着替えるのが男子校ならではのだと思います」と話す武内さん。埼玉県には現在12校の男女別学の公立高校が存在。共学化案をめぐって議論が交わされている。共学化に賛成か反対かという以前新聞部が松校生に対してとったアンケートによると、賛成が7.6%、反対が67%で、反対が圧倒的に多い結果に。部員は男子校に入り中学のころよりも分裂がなくなり、行事に本気で取り組むことが増えたと感じるそうで、杉原さんも男子校ならではの魅力から共学化には反対とのことだ。

最後に、松山高校記念館を案内してくれた。これは開校当時の大正12年から使用されていた校舎の一部で、国の登録有形文化財。現在は記念館として、90年以上前の賞状や掛け軸、部活動紹介のパネルなどが展示されている。松校生でも入る機会が少ないという記念館に伺うことができ、編集部員は終始感嘆の声を上げた。

あえて分業という方法で、部員を誰一人取り残さないという部活の形に刺激を受けた。新たな素敵な出会いと多くの学びがあった今回の取材。松山高校新聞部の挑戦や心配りに学び、錦城高校新聞をより盛り上げていきたいと感じた。今回取材をさせていただいた松山高校新聞部のみなさま、ありがとうございました。(桃)

## 手話を覚えよう! ①

11月に東京でデフリンピックが開催されるのに関連して、編集部ではデフリンピック特集を企画している。連載企画として、先生方に簡単な手話を実演していただいた。みんなで手話を覚えてみよう!



簡単な動きでたくさんの言葉が作られている事を不思議に思いました。(桐ヶ谷先生)

今回手話を実演してくださったのは、理科の桐ヶ谷泰希先生。第1弾で紹介するのは、「デフリンピック」を表す手話。やり方は、両手の親指と人差し指で輪を作り3本の指を広げた後、合わせた輪を手を返し、てまた合わせるというもの。ぜひやってみてほしい。(藤)

## 大会報告

|      |          |                         |            |
|------|----------|-------------------------|------------|
| 吹奏楽部 | 8月11日(月) | ▽第65回東京都高等学校吹奏楽コンクール    | 銅賞         |
| 写真部  | 8月20日(水) | ▽第48回東京都高等学校文化祭写真部門地区大会 | 最優秀賞 榎本ありさ |

|      |           |
|------|-----------|
| 優秀賞  | 佐藤さよ(2J)  |
| 佳作   | 海老由衣奈(2I) |
|      | 藤井一朗(2K)  |
|      | 砂野結月(3I)  |
|      | 久森百合乃(2L) |
|      | 丹羽博音(2F)  |
|      | 上原詩(1M)   |
|      | 阿知波歩未(1M) |
| 最優秀賞 | 宇佐美朋夏(3K) |

|           |          |
|-----------|----------|
| 生徒会活動     | 7.19~9.1 |
| ▽中央委員会    | 随時活動中    |
| ▽錦城祭実行委員会 | 随時活動中    |
| ▽後夜祭実行委員会 | 随時活動中    |
| 随時活動中     |          |